

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500361		
法人名	医療法人 仁生会		
事業所名	ひだかの里		
所在地	高知県高岡郡日高村下分3561-1		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携にて健康管理に留意し入院させないケアを目指している。日高村で生活してこられた利用者様が生活の場は変わっても日高村の住民としての生活が継続できるよう地域との繋がりや家族との繋がりを大切にしている。また、「認知症対応型通所介護ひまわり」を併設しており外部から利用される方との交流を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3972500361-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から少し入った自然に恵まれた環境の中にあり、敷地内の野菜園で利用者が栽培を楽しんでいる。事業所は平屋建てと2階建の別棟の建物に各ユニットがあり、平屋建てのユニットは通所介護施設と併設で、天井から外光を取り入れてバリアフリーの解放感のある造りとなっている。また、別棟は1階が共用スペース、2階がユニットになっておりこの窓からも周囲の景色を観ることができ、季節の移り変わりを感じることができている。地域交流では、小学校のふれあい運動会に利用者全員が参加して一緒に競技をしたり、事業所の忘年会では家族が調理を担当し、地域住民を招待するなど地域に密着した交流が行われている。施設長をはじめ管理者及び職員は、理念とする家族や地域との関わりを大切にし、散歩等で住民に出会った時は先に挨拶の声かけをするなど意識付けがされている。地元在住の家族が多く、家族会として事業所の草引きを手伝うなど互いの信頼関係が築かれている。また、協力医療機関等との連携もよくとれており、利用者が安心して過ごせる、家庭的で住民にとっても身近な事業所になっている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:とんぼ・めだかユニット共通

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成しており、共有し実行する事の大切さを話し合いながらケアにつなげている。	理念の「穏やかな雰囲気作り」と「地域との関わり」を大切にしており、利用者一人ひとりが笑顔で楽しく過ごせるためのケアを意識づけるとともに、散歩や買い物では積極的に挨拶をすることを心がけ、毎日の申し送りでケア内容を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており職員は地域の一斉清掃に参加している。近所の方が野菜の差し入れをしてくださったり、防火訓練に参加してくださるなどの関係を築いている。地域の百歳体操には週二回参加し交流を図っている。	自治会に加入し、総会や一斉清掃に参加している。また、小学校の運動会や地域の福祉運動会、神祭等に利用者と共に参加している。近隣住民に野菜をもらったり、事業所の忘年会には家族と一緒に住民の多数の参加があるなど、交流関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者が地域の行事に参加したり、地域の方がホームの行事に参加して下さり交流を図る事で認知症について理解してもらい支援に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、入居者の意見も聞きながら意見交換し、会議メンバーへの相談やアドバイスを受け良いケアにつなげている。	会議には利用者全員が参加し発言機会を設けている。事業所からの活動報告とともに、取り組んでいるケアの問題、防災に関する備蓄、避難場所などの議題を提示し、助言や意見をサービス向上に活かしている。外部評価も議題にしているが、意見が少ない。	外部評価結果や目標達成計画について、制度の趣旨を説明し取り組み経過を報告しながらより一層の意見や協力が得られるよう、取り組みの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議へ参加して下さっており、その際ホームからの報告を行行情報を共有している。いつでも相談、意見を仰ぐ体制はとれている。	介護認定更新や調査について村の担当者へ相談したり、運営推進会議の参加時に事業所の実情や取り組みを伝え、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束の弊害について話し合い、拘束のないケアを行っている。	母体法人の研修会に参加し、身体拘束に関する講習内容をミーティングで伝達している。ケアの中で気づかないうちに利用者の気持ちに抑圧感を与える言葉遣いをしてないか振り返り、言葉の工夫について職員間で話し合いながら身体拘束のないケアの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待や、心理的虐待が職員の気づかないうちに起こっていないかお互いが気をつけ注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もおり、職員は制度について理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類等を読み上げ、疑問点や不安な点を聞きながら説明し理解と納得を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日来られるご家族もおられ、事業所に対する要望や意見も頂き職員で話し合いながら運営に反映させている。また、合同家族会(年1回)の開催や大事な議題が持ち上がったときはいつでも家族会の開催が出来るような体制ができています。	利用者は運営推進会議で意見を表す機会があり、家族は事業所の行事に合わせて開催する年1回のユニット合同の家族会で意見や要望を出している。家族会では、家族同士の集いもあり多数の家族が参加している。家族会は事業所の行事等に協力的であり、話しやすい関係ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや、2ヶ月に一回、職員会を設け職員の意見や提案を検討し運営に反映している。日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけている。	2カ月に1回職員会を開催し、意見や要望を聞くように心がけている。また、業務でもコミュニケーションを図り、足腰の負担軽減になる介助方法をアドバイスしたり、毎日のミーティングで職員の提案やアイデアを聞き、反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態は職員の希望や都合等を聞きながら配慮するなど、働きやすくお互いが切磋琢磨できるような環境作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはそれぞれの職員が参加出来るよう配慮している。研修した職員はそれを伝達し全職員が共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内の事業所の行事に参加するなど、交流を通じてサービスの向上に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族と面談し要望や生活状態をお聞きする事から始め、徐々にご本人のことを把握し信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを受け止めどのような対応ができるか、家族と一緒に取り組める事は何かを話し合いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望に沿ってサービス内容を検討し支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者中心の暮らしを意識し、共に過ごしていく関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>出来る事は一緒に行いながら生活の知恵を教わる事も多く、入居者に励まされる場面も多くある。家族との関係を断ち切ることなく共に支え合っていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の馴染みの方々との関わりを続けていけるように地域のイベントには積極的に参加している。買い物の同行や、美容院、理髪店等入居前からの行きつけに行かれる入居者もいる。</p>	<p>入居前からの馴染みの美容院を利用したり、週2回の百歳体操に参加して知り合いの住民との関係継続を支援している。また、利用者が以前に出荷していた市場に出かけて友人等と会ったり、知人等の事業所訪問が継続されるよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は入居者を独りにすることなく見守りを行ったり、気の合う人同士を同じテーブルにする等の工夫をしながら楽しく暮らせるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も、入院先に見舞いに行ったり経過等について聞いている。また、日ごろ出会った際には近況なども聞いている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いを大切に考え本人の希望や意向の把握に努めている。</p>	<p>介護度の低い利用者の思いや意向は会話の中で聞いて把握し、介護度が高く意思表示の困難な利用者には目の動きや表情で真意を推し測ったり、仕草から確認するようにしている。また、家族の訪問時にも情報を得ている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、本人や家族との関わりの中で情報の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、本人が出来る事や出来ない事、身体の状態等について総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族の意向を反映させるようにしている。サービス担当者会は3ヶ月に1回行っているが変化があった時はミニカンファレンス等を行い介護計画の変更を行っている。	利用者の日頃の思いや、面会時や電話で聞いた家族の意向を介護計画に反映させている。見直しは3カ月毎に行い、サービス担当者会で職員全員でモニタリング等に基づく意見交換を行い、期間中に変化があればケアマネジャーが担当職員と話し合っ計画変更を行い、全員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は介護計画に沿って行い。職員間で情報を共有し、問題点があれば介護計画の変更につなげられるような記録の書き方を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が他の病院の受診が必要になった時は家族の状況に応じて職員が受診同行を行い、早めに受診し入院させないケアに繋がっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、支援に関する情報交換やアドバイスを受けるなどの関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に希望するかかりつけ医を確認している。協力医をかかりつけ医としている場合は職員が同行しているが、他の病院受診を必要とする場合でも職員が受診同行するケースもある。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医で受診し、かかりつけ医が母体法人の医療機関の場合は職員が同行して受診している。専門科受診には家族が対応し、救急の場合は職員が同行し家族に連絡している。受診結果は主治医や家族から報告があり職員と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて、毎日看護師の訪問があり入居者の健康チェックを行ってくれている。職員は、入居者の状態を伝え指示を受ける関係性が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療連携と相談し早期退院ができるよう情報提供も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルケアについては家族会でも話し合い、事業所で対応できることを説明している。	入居時に事業所の重度化した場合における対応指針に沿って説明を行い、同意を得ている。入居中に重度化や看取りの状態と医師が判断した時には再度家族と話し合い、事業所で対応できるケアを説明し、意向を確認して希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ハイムリック法や転倒した際の対応など実践力を身につけることができるよう看護師の指導を受けている。また、マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、入居者も参加し色々な設定で行っている。地域の方の参加も自治会長さんを通じてお願いしている。	消防署の協力を得た訓練と事業所独自の訓練をそれぞれ1回ずつ行い、地域の防災訓練にも参加している。事業所の防災訓練については地域住民に呼びかけ少数であるが参加を得ている。非常用として水、レトルト食品、缶詰などを三日分備蓄している。	地域住民との連携や協力を得ることは重要なことであり、地域の防災訓練の機会を活かしたり運営推進会議の活用により、地域との防災に関する協力体制を構築し事業所の訓練へのより多くの参加につながることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには注意し、上から目線にならないよう心がけた対応を行っている。	トイレでの排泄支援が目につかないよう配慮したり、入浴の際のプライバシーに気を配っている。職員の言葉遣いの内容や語調が利用者の誇りを傷つけていないかいつも確認し合い、穏やかな声で話すことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから表情など入居者の様子を観察し、意思表示が困難な方でも表情や反応から自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調や状態を確認しながら無理の無いペースで一日を過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の行きつけの美容院や理髪店に行き、好みの髪型にしたりホームで白髪染めをされる入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮はぎや、干し大根、干し柿を作るなど一緒に作った物を一緒に食べることを楽しさを感じることを職員は理解して行っている。	献立や調理は職員が交替で担当し、食材の在庫を見て買い出しやメニューを決めている。利用者の嗜好を本人や家族から聞いて調理に反映したり、季節行事は、ちらし寿司などで祝うようにしている。利用者の得意なことを活かして、職員と共に食事を作ることによって楽しい雰囲気になるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、個人の水分摂取、食事を確認し必要な水分量が提供できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケア誘導を行い見守り、必要な方には介助を行っている。週に一回は義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗してもすぐに紙パンツにするのではなく排泄パターンを把握し誘導を行う等トイレで排泄できるよう支援している。	職員は排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握しており、自立に向けて個々の身体機能に応じた支援を行っている。支援の継続により、紙パンツの使用から昼間は布パンツに移行できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は不穩にもつながるため毎日の排便確認を行っている。運動や食べ物、飲み物を工夫し排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事のある日以外は毎日入浴を行っている。また、行事のある日でも毎日入浴の希望の方については入浴を行っている。	基本的に午後を入浴時間としており、毎日入浴する利用者もいるが、体調に留意し全員最低でも2日に1回は入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者には、言葉がけやチームプレイによって入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡される入居者もおられるが日中の活動に配慮し夜間安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、誤薬が無いよう職員が2名で確認し入居者が飲み込むまで見守りを行っている。薬の種類や副作用についても薬品名カードをいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いすることなく、その人ができそうな事をお願いし自身と喜びある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム全体としては毎月1回はバスレクリエーションに行っているが、ご家族と外出されたり、職員と買い物に同行、散歩など外出の機会を作るよう努めている。	月1回はバスによるレクリエーションを行い、食事を兼ねた花見などに積極的に出かけている。車椅子の利用者も参加し、家族も招待している。毎年小学校の運動会に参加して競技を楽しんだり、定期的に週2回の百歳体操に通うなどの外出支援を行っている。	豊かな自然環境を活かし、ストレス解消、五感の刺激が得られるように日常的に短時間でも戸外に出る機会を作り、増やしていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については基本はホームで管理しているが希望があれば一緒に買い物に行き、家族と相談し小遣い程度の金銭をご自分で管理することの支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族と連絡が取れるように携帯電話を持っている入居者もおられる。ご家族と電話で話される入居者も多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ユニットはフラットで車椅子も対応できる造りとなっている。両ユニットとも安全を考え環境作りをしている。	フロアには畳敷きのコーナーがあり、落ち着いて腰をかけたり休養できるようにしている。壁には季節感のある花を飾ったり、利用者が色づけた塗り絵が飾られている。職員と利用者が合同製作したパッチワーク、飾り布をソファに掛けてあったり家庭的で居心地の良い共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性を考えたテーブルで過ごしていただいている。入居者は、思い思いに移動されるが自分で動くことのできない方については職員がさりげなく誘導を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し馴染みのものを持ってきていただいたり、写真を貼り落ち着いた空間を作っていただいている。	居室は利用者の個性を表しており、花に興味のある利用者の居室には花の写真が多く飾られ、各居室には家族写真、テレビ、特別注文の椅子などそれぞれの馴染みの物を置いて、和やかに過ごせる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、玄関のスロープ等安全に過ごせるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				